

## 南相馬市民生委員児童委員協議会

(平成 25 年 5 月 17 日掲載記事)

### (1) 南相馬市の被災状況と現在の様子

福島県南相馬市は、福島県の太平洋に面した浜通り北部に位置しています。平成 18 年 1 月に小高町・鹿島町・原町市が合併して誕生しました。東日本大震災では、震度 6 弱を観測し、海に面しているため津波の被害も甚大でした。それに加え、福島第一原発事故により原発から 20km 圏内の小高区（旧小高町）が警戒区域、30km 圏内の原町区（旧原町市）が緊急時避難準備区域、30km 以上の鹿島区（旧鹿島町）は指定区域外となり、市内を合併前の市町に分断するように線を引かれました。

現在は、小高区（原発から 20km 圏内）の大半が避難指示解除準備区域となりましたが、まだ帰還することができず、宿泊することができない状況です。津波による被災者、原発事故による被災者が多数いるため、市内には仮設住宅が 3,000 棟以上建設され、5,000 名以上が仮設住宅に居住しています。また、仮設住宅だけでは間に合わず、民間借上げ住宅に居住している方も相当数にのぼります。

### (2) 現在の民児協活動

南相馬市民児協では、震災直後に委員それぞれが要援護者の安否確認に回りました。その後、原発事故により委員自らも避難せざるを得ない状況となりましたが、ほどなくしてそれぞれ帰還し、委員活動を再開しました。被災により亡くなられた方もおり、現在は 7 名の欠員となっていますが、それぞれの委員が活動に励んでいます。そのなかには、やむなく遠方に避難せざるを得なかったものの、南相馬市に通いながら住民とコミュニケーションを取り続けている委員もいます。

避難指示解除準備区域の被災者は、まだ帰還できる見込みが付きません。そのことによる不安は計り知れません。委員活動のなかでも、その点に関する住民のメンタルケアが重要なので、傾聴を重要視しています。また、震災前の地域住民が集まれる場をサロン活動として作り、住民同士が悩みを吐露できる場を作る工夫をしています。

このような状況下では、住民の不安を少しでも解消するために、委員自ら正しい知識を身につけ活動することが重要なため、南相馬市民児協の研修会において、放射能に対する正しい知識をつけることや、被災者の心に寄り添うための講話、そして支援者（委員）に対するメンタルケアなどを題材として取り上げています。

### (3) 終わりに

南相馬市は、まだまだ復興途中でありますが、委員も含め地域住民それぞれが復興を願い、この地で生き、支え合って生活しています。しかし、南相馬市の現状が正しく他地域に伝わっておらず、人が住めない地域と言われることもあります。全国の委員の皆様には、正しい情報発信をこの場をお借りしてお願いできればと思います。

南相馬市民児協では、震災を乗り越えたこと、命があることに感謝し、今できることに全力で取り組み、住民の復興しようとする気持ちに寄り添い、ともに支え合い、住民から頼りにされ必要とされる、そんな民生委員・児童委員活動を続けてまいりたいと考えております。